



平成23年度 スローガン

地域に密着し地域を支える商工会を目指して

出雲大社観光ガイド養成講座

(地域資源∞全国展開プロジェクト「縁結び博」)

観光ガイド養成講座を開催し、歴史・文化の知識だけでなく、実践的な研修を実施しプロの観光ガイドを養成
(2ページに関連記事)

商工連

しまね

主な 内容

- 全国展開プロジェクト……………(2)
- 全国展開プロジェクト(続き)……………(3)
- しまね地域資源産業活性化基金 第8回採択 ……(4)
- しまね地域資源産業活性化基金 採択事例
新醤油の開発と販路開拓 (有)森田醤油店……………(4)
- 石見支所だより
買い物不安解消!らくらく便……………(5)
- 青年部 研修大会を隠岐の島町で開催……………(6)
- 「被災地の人にラーメンを食べてもらいたい」…(6)
- 商工会 女性部中四国ブロック交流会……………(7)
- 珠算検定 合格おめでとう……………(8)

No. 285

平成23年8月26日発行

発行/島根県商工会連合会
松江市母衣町55番地4
TEL: 0852-21-0651
石見支所
TEL: 0855-22-3590
URL <http://shoko-shimane.or.jp/>
E-mail: shokolen@shoko-shimane.or.jp
印刷: 株式会社島根県農協印刷

地域資源∞全国展開プロジェクト

平成22年度採択事業報告

出雲商工会・隠岐の島町商工会・雲南市商工会

平成23年度採択事業

出雲商工会

神話の聖地

「縁結び博」の開催

出雲商工会

出雲商工会はまつえ南商工会と共同で平成22年度に「縁結び博2010」を開催しました。平成23年度は斐川町商工会も加えた3商工会共同で実施します。平成24年には島根県による「神話博しまね」が開催され、平成25年には出雲大社正遷宮が予定されているため、このプレ

イベントとして盛り上げていきたい考えです。

平成22年度事業の成果

昨年度実施した「縁結び博」は、関西方面、山陽方面への広告宣伝に力を入れ、出雲神話に登場する神様を祀る5つの神社をメインルートに設定し、周辺の観光スポットやプログラムを紹介しました。事業は順調に進み、事業の一環として実施したパワースポット周遊などの「神話のふるさと巡り」の企画は日本海テレビや地元新聞で取り上げられるなど大きな反響を呼び、この事業は、出雲地域の神社を取り上げたパワースポット巡りの火付け役になりました。全国的にはパワースポットブームの兆しがありましたが、これを出雲地域で取り上げたのは、本事業が初めてでした。このため、出雲市だけでなく松江市においてもパワースポットの売り込みが行われ、互いの相乗効果によって観光需要の創造に大きく貢献したと考えています。月刊誌2011年1月号日経エンタテイメント!「2010年ヒット総まとめ」特集において、島根県で唯一取り上げられたのが「出雲大社はパワースポット

巡りの観光客が増え盛り上がった」という記事でした。

平成23年度事業内容

今年度事業の目玉は、「ミッシヨン縁結び」と題した、玉造温泉、斐川町、出雲大社、日御碕に至る広域ルートのクイズラリーと出雲大社周辺の街歩きクイズラリーの2種類を計画しています。それぞれの観光スポットでクイズを出し、すべてに正解すると「縁結び達成証」がもらえる。お客さんに楽しんで周遊してもらえそうな仕掛けづくりとして実施します。また、9月のシルバークロ期間中の6日間に、出雲大社正門前の勢溜りにおいてウエルカムキャンペーンを実施し、「縁結び博」の総合案内所や観光ガイドの詰所、特産品売場、勾玉製作などの体験型店舗の出店などイベントを張ってイベントを盛り上げる予定です。昨年実施して好評だった「縁結び巡り帖・立寄り帖」のセットについては、今年度も斐川町の情報を増ページして作成します。巡り帖は、絵本のようになっており神社に置いたオリジナルスタンプを押すと絵本が完成する仕掛けで女性に人気を呼び、



平成22年度縁結び巡り帖・立寄り帖

4万5千セット用意しましたが3か月でなくなりました。

その他、ホームページによる事前告知や出雲大社観光ガイドの養成講座の開催、出雲大社参拝ガイドの発行、摂社・末社ガイドの発行など昨年に引き続き実施する計画です。

「島の地域資源が人を育てる新たな旅行商品の開発」

隠岐の島町商工会

隠岐の島町商工会は、平成22年度に全国展開支援事業・地域資源∞プロジェクト本体事業（観光商品開発）にエントリーし、約1年間をかけて事業に取り組みしました。プロジェクト名は『島の地域資源が人を育てる

新たな旅行商品の開発』と題し、従来からの周遊型（見て、遊んで、周って）の観光商品ではなく、隠岐の歴史や自然、離島イコール無人島というイメージを活かして『自己修練』を行うことを大きな柱として事業を展開しました。また、現在隠岐が世界ジオパーク登録を目指していることから、『ジオパーク』も一つのキーワードとなりました。

事業運営体制については民間、行政、商工会合せて13名で実行委員会を組織し、全12回の実行委員会を開催しました。

観光商品開発ということでモニターツアーを行うこととなり、対象として、企業の社員研修と大学のゼミ・合宿をターゲットとし、企業はイオン労働組合（関東ブロック）、大学は県内から島根県立大学と県外から関西学院大学をそれぞれピックアップしました。モニターツアーの内容は、ジオパーク関係として、植物見学、自己修練という意味では黒曜石矢じり作り、火起こし体験等の原始体験を行いました。

このツアーを行った結果、労働組合等企業の研修については旅行商品化が見込めるとの判断となり、企業向けの商品のみ作

ることになりました。出来上がった商品は『隠岐塾』と名付けられました。

その後の動きとしては、イオンの他のブロックの労働組合からも問い合わせが多数来ており、23年度内には商品として稼働する見込みとなっています。大学については旅行への参加するための経済的負担が難しいことなどから、旅行商品の開発は断念することとなりましたが、事業終了後に隠岐の島町内の祭事に参加するなど交流が続いており、今後の展開が期待されます。

新商品の『隠岐塾』に対してのイオン労働組合からの評判は非常に良く、観光の起爆剤になることが期待され今後の展開が楽しみです。



竹飯盒を作成する受講生

「出雲神話ヤマトノオロチ伝説 関連商品開発プロジェクト」

雲南市商工会

雲南市商工会では、平成22年度、全国に知名度の高い出雲神話「ヤマトノオロチ」伝説を地域資源として捉え、新たな観光と食品の開発をおこなう「地域資源∞全国展開支援事業」に取り組みました。

観光商品開発事業では、まず事業の方向やモニター旅行の企画を立てるために、岩手県遠野市と平泉町へ少人数の旅行者を対象とした「語り部タクシー」の運営について、関係者7名による視察研修をおこないました。

その結果、雲南市でも旅行商品の対象者をタクシー利用者として設定し、「うんなんやマトノオロチ伝承地巡り」日帰り及び宿泊プランを企画しました。価格については敢えて極端に安価なモニター価格にせず、翌年以降にも継続できる価格設定にしたところ、日帰りプラン参加者は40名。宿泊プランは8名の参加がありました。この他に伝承地をきちんと説明ができる観光ガイド養成事業の実施や「ヤマトノオロチ伝説」を含めた出

雲神話検定の検討を周辺商工会とともに協議をおこないました。

食品開発事業では、雲南市商工会で商標登録した大型の唐辛子「オロチの爪」や、地元特産の山椒、梅などのスパイスを利用したスパイス関連商品を9種類、商品開発をおこないました。

また、参加企業の女性社員の企画による、スパイスレシピ集「ホットな女子飲み気分」を2万部作成し、販促ツールとして各種展示会や日々の営業活動のなかで活用しました。



さらに具体的な販促活動としては、旅行商品のPRも含め、「グルメ&ダイニングショー」などへ延べ6回の出展や島根県知事への成果報告、BSフジ「テリー伊藤の地域救済TVワッチミー! テリー塾」への出演などをおこない、あらたな販路獲得に大きな成果を上げることができました。

雲南市商工会では、本事業を一過性の事業に終わらないようにするために、23年度は観光関連事業として、奥出雲町、飯南町、斐川町、雲南市の4商工会で11月13日(日)に「出雲神話検定」の実施を予定しています。また、食品開発事業では、今回の事業で開発された商品を市内の飲食業、小売業等で積極的に利用してもらうために、会員親睦事業に合わせ「商品見本市」の開催を予定しています。

島根県では、今年度から本格的に古事記編纂1300年を記念した各種事業がはじまっています。これに合わせ雲南市商工会でも絶好の機会と捉え、観光と食品の販売拡大を目指して継続した取り組みをおこなっていきます。



小さな負担・大きな安心 県共済の火災共済

火災事故のほか落雷、破裂爆発、風災、雪災の自然災害も担保します。

お申し込み、ご相談は 県下各商工会へ
島根県火災共済協同組合
☎0852 (21) 0249

農業の明日をつくる メインバンク

農商工連携に取り組みます。



JAバンク島根

しまね地域資源産業活性化 基金助成金交付事業 第8回審査会で11事業を採択

去る6月1日(水)、「しまね地

域資源産業活性化基金」の第8
回助成事業審査委員会がサンラ
ポーむらこも(松江市殿町)で
開催されました。当日は、担当
者が申請事業のプレゼンテー
ションを行い、審査の結果、11
事業が採択されました。

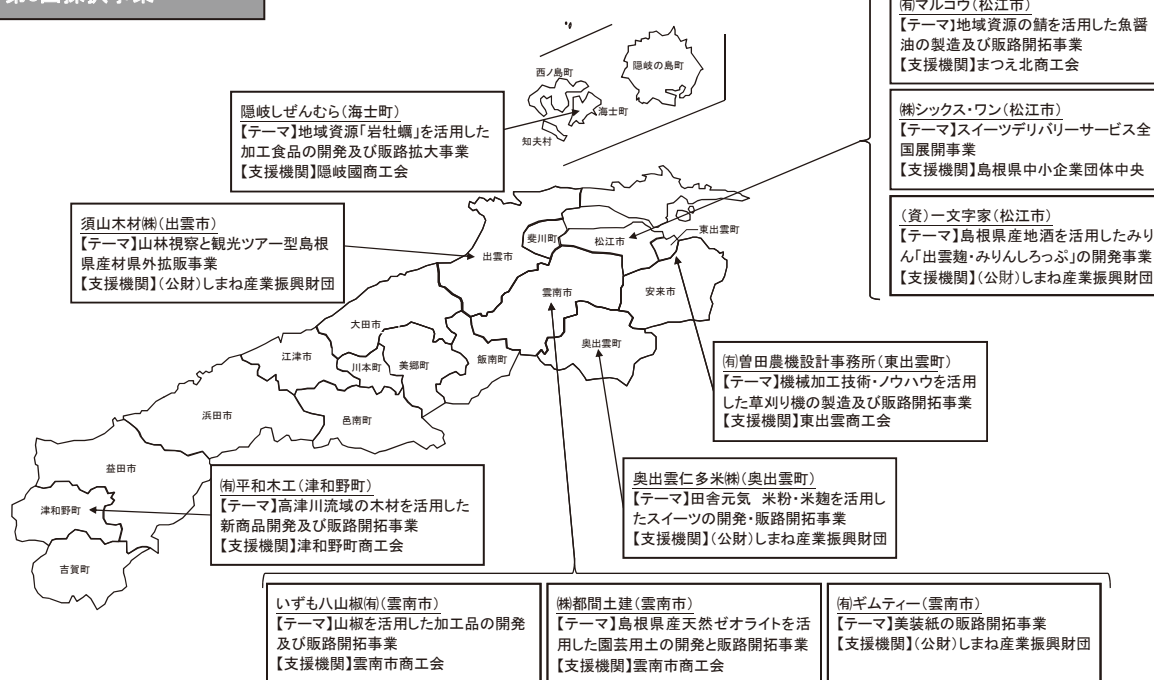
今後、当会は支援機関と連携
しながら事業化への取り組みを
支援していくことにしています。

なお、次回の公募は9月1日
(木)10月5日(水)を予定しており
ますので、地元商工会へお気軽
にご相談ください。



都間土建様によるプレゼンテーションの様子

しまね地域資源産業活性化基金 第8回採択事業



新醬油の開発と販路開拓

有限会社 森田醤油店



有限会社 森田醤油店
仁多郡奥出雲町三成278
0854-54-1065
<http://morita-syouyu.com/>

有限会社森田醤油店は、平成22年度しまね地域資源活性化基金の第6回審査委員会において、黒大豆「赤名黒姫丸」を使用した新醬油の開発と販路開拓事業が採択され、奥出雲町商工会支援のもと、平成22年7月から本事業に着手し、1年をかけて黒大豆醬油を開発しました。

黒大豆は、量産化が困難な点からまだ醬油原料としての利用は多くありません。同社では、品種改良により量産できるようになった「赤名黒姫丸」が、飯南町や奥出雲町で栽培されるようになった事実と、従来の大豆に比べて大豆特有のアントシアニンが大量に含まれることから抗酸化作用等の効果が期待でき、商品イメージの良さだけでなく、機能性においても他社商品に対して優位性が持てることに着目し、黒大豆の新醬油開発を行いました。

試作品の栄養分析においても、

しまね地域資源産業活性化基金

助成率 **2/3以内※**

※通常は1/2以内、特例として平成21年度から3年間の採択事業に適用。

助成額 **50万円～500万円**

助成期間 **2年以内**

公募 **年2回(春・秋)**

今後の展開として社長の森田氏は、「地元の食農連携の必要性は非常に重要なものと考えている。計画的な農産物の供給を求めるとともに、販路の拡大を計画するためにも、地域に密着した商品で有ることを強くアピールし、高付加価値の商品として他社との差別化を図ることで事業展開したい。」と報告されました。

石見支所だより

濃会 買い物不安解消！
美商工 しくしく便

高齢化や少子化により地域から人口が減りそれに伴い近くにあった店舗も減少、そこでは買い物弱者と呼ばれる人たちが全国的に問題になっています。その為、各地域では生活バス、移動販売車、注文配達など様々な施策を行っています。

益田市の美都町・匹見町地区も例外ではなく高齢化率が平成23年には44・4%と過疎化・高齢化が深刻な状況です。また消費の地域外流出、益田市との合併による行財政改革の一環で公共施設の統廃合等により納入先が減るなど地元事業者の経営環境は厳しい状況が年々増えています。そして、買い物に不自由している住民も年々増加し、こうした状況を踏まえ消費者に利便性を提供することで地元購買率の上昇を図ろうと「御用聞き事業」が始まりました。

美都・匹見らくらく便は県の「地域商業構築モデル事業」を受けて昨年からスタートしました（匹見は今年度から開始）。美都らくらく便では商工会と

地元商業加盟店（6店）で運営をしており、毎週1回配達日を決めて加盟店の方が「黄色いエプロン」を着て利用者のお宅へ伺い配達と注文を受けてきます。



利用者から注文を受けている配達担当者

加盟店の事業者が実際に出向き生の声を聞こうと加盟店の中でローテーションを組んで利用者宅に伺う為「毎回人が変わるのわかりづらい」との声から配達担当者は黄色いエプロンをするようになったそうです。このように試行錯誤を重ねながら始めた御用聞き事業は昨年8月11日の運用開始時には5人の利用でしたが現在では32人の方が利用をしています。

匹見らくらく便は商工会と地元商業加盟店（6店）、そして社会福祉協議会匹見支所（以下、社協）も加わり今年6月15

日からスタートしました。匹見地区では利用者は直接加盟店へ注文、社協が注文品を利用者のお宅へ届けています。匹見は現在8人の方が利用しています。

らくらく便を開始して利用者から「家にいながら注文した物が届くので助かる」との声と共にコミュニケーションの場としても好評のようです。しかし中には「現物を見て買いたい」との声もあり今後の課題がない訳ではありません。また、美都地区ではモデル事業としては今年度までですがその後も事業を継続できるよう益田市とも協議を重ねて生活基盤商業として方向性を示して行くとのことでした。

「御用聞き事業」を通して中山間地域における行政と事業者そして住民が一体となつて新たな商品供給の仕組み・コミュニケーションづくりが他地域のモデルとなりそうです。



配達時の持ち物
（エプロン、注文書、配達ケース）

今日からはじめる

省エネ生活

家庭で使う電気の約7割はエアコン・冷蔵庫・照明・テレビ。
消費電力量の多い機器から省エネに取り組む。それが効果的な省エネのポイントです。

【家庭における「家電製品別」の消費電力量の割合】
出所：資源エネルギー庁
平成16年度電力供給の概要（平成15年度推定実績）
（注）割合は四捨五入しているため合計が100%になりません。

家電製品	割合
エアコン	25.2%
冷蔵庫	16.1%
照明	16.1%
テレビ	9.9%
電気カーペット	4.3%
温水洗浄便座	3.9%
衣類乾燥機	2.8%
食器洗い乾燥機	1.6%
その他	20.2%

エアコン

エアコンの設定温度は夏は28℃、冬は20℃に！風向きも考えて!!

夏の設定温度は 28℃
冬の設定温度は 20℃

冷蔵庫

開け閉めは素早く!!
詰めすぎに注意!!

冷蔵庫は詰めすぎないで!!

照明

点灯時間を短く、こまめな掃除で明るさUP!

テレビ

明るさと音量は適切に!!
こまめに消す習慣を!!

OFF

家庭でできる省エネ情報はこちら <http://www.energia.co.jp/> **中国電力株式会社**

青年部活動

商工会青年部研修大会

隠岐の島町で開催

島根県商工会青年部連合会は7月2日、隠岐の島町の隠岐島文化会館において、約180名の参加のもと、平成23年度島根県商工会青年部連合会研修大会を開催した。

開会式では主催者挨拶について、開催地である隠岐の島町商工会野村吉秀会長の歓迎の挨拶の後、来賓の松田隠岐の島町長、吉田県議会議員から、震災等の影響で厳しい経済状況のなか、地域の活力を引き出していくには、商工会青年部の若い力に期待するところが非常に大きい、期待のこもった祝辞を賜った。



主張発表される明見 太一さん

青年部主張発表

中四国ブロック大会代表に

明見 太一さん(飯南町)決定

開会式のあとに開催した全国商工会青年部主張発表県予選は、県下6ブロックの代表による熱のこもったすばらしい主張発表であったが、飯南町商工会青年部、明見太一さんの地元のローカルヒーローをテーマにした、お仕事戦隊イソガシンジャーの活動発表が、見事最優秀に選ばれ、9月3日高知市で開催する中四国ブロック商工会青年部交流会に、島根県代表として出場することとなった。県大会の入選者は次のとおり。

最優秀賞 明見 太一さん

(雲南ブロック・飯南町)

優秀賞 澤田 令さん

(石東ブロック・美郷町)

優良賞 勝部 栄治さん

(雲東ブロック・まつえ南)

主張発表終了後は、三重県鳥羽市海島遊民くらぶ代表の江崎貴久さんを講師に迎え「幸せになれる地域づくり〜地域を育てる連携・循環〜」と題して、講演会を開催した。

東日本大震災被災地域で炊き出し支援活動

奥出雲町商工会青年部の吉川朋実さんがこの度の東日本大震災の支援活動に参加され、その時の支援活動を通じて体験された事などについてご寄稿いただきましたのでご紹介致します。

『被災地の人にラーメンを食べてもらいたい』

奥出雲町商工会青年部

吉川 朋実

東日本大震災の起きた次の日被害状況を中継するテレビを見ながらそんな想いが湧き、炊き出し支援に行こうと決めました。すぐ知り合いなどに「俺、炊き出し支援に行きたい」と言ったら、ありがたいことに皆、食材などの物資提供を申し出てくれました。私が炊き出し支援に行くのを聞きつけ「一緒に行きたい」と言ってくれた2人と、4月23日、宮城に炊き出し支援に行く事に決めました。

出発の日はどうしやぶり。皆さんより支援物資を受け取り、ラーメン1500食分の材料や仁多米と一緒にダンブに積み込み、午前10時に出発し24日の夜中の2時、仙台に到着。夜が明

けてから被災場所を見て回ると、テレビの中の出来事だった大災害が現実なんだと実感しました。私たちは自治体や社会福祉協議会などに炊き出しを申し込まず、ゲリラ的に行ったので、炊き出しする場所も決まっていま



南三陸町防災センター

南三陸町と言えば、町長が防災センターのフェンスにつかまって助かったことがニュースに採り上げられ、また、女性町職員が命尽きるまで防災無線で避難呼びかけを続けていた、あの町です。紹介していただいた社長はその時、既に1カ月以上もそこで支援活動をされてお

体が管理している避難所があり、そこには支援が行き届いていますが、自治体管理外(被災者が自主的に運営)の避難所や、自宅で生活している被災者には支援物資や食料が届いていませんでした。そういう、支援が行き届かない人たちのところへ私たちが炊き出しに廻りました。

島根を出発する前には「中華蕎麦 奨」のラーメンを食べてもらいたい」とか「うまい卵とうまい米を使った島根の卵かけごはんを食べてもらいたい」とか、色々な想いがありました。被災地で炊き出しをしてみると、そんな想いはふつとびました。テントを張っただけの簡単な調理場で、とにかくその時にある材料でできる献立で、500食を1日2食作らなければならぬのです。また、昨日はラーメン今日もラーメンという訳にはいかないので、ラーメン屋だけ何でも作りました。私たちが持つて行った食材も被災地に行ったら誰のものでもなく、全部投げ出して「これ使ってくれ」という感じでした。「卵は野菜妙めに使おう」とか、「子供が多い地区に行くから今日はカレーだ」と言うように献立が決まって行きました。商売人と

してはお金ももらわずにラーメンを出すということは考えにくい状況なのですが、被災地では無料で食材や食事を提供することには違和感がまったくありませんでした。家族にご飯を食べさせるのと同じで、自分の息子に出す、お母さんに出す。それに近い感覚なのだと思います。

島根に帰る前の日に「帰りたいな」と言っていたら、現地の人に「ちゃんと帰って被災



炊き出しの様子

地の状況を島根の人に伝えてくれ。そして1人でも多くの人がこの地に足を運ぶ様ようにして欲しい」と言われました。

被災者の人がいちゃん恐れていることは、忘れ去られる“ことです。出発前は「行ったら邪魔になるんじゃないか」と、私たちも不安でしたが、行ってみるとそんなものは邪推に過ぎず、被災地の人たちはとても

歓迎してくれました。もし支援に行きたいと考えている人がいれば、ぜひ行って欲しいと思います。そして、支援に行けない人も、被災者のことを忘れないでいてください。今後の私の支援活動としては、被災地での体験を多くの人に伝えて回ろうと思っています。そして、また何度何度も、被災地に行きたいと考えています。

被災者の人と向き合うのではなく同じ方向を見て、一緒に進んで行きたいと、炊き出し支援を通して思いました。

最後になりましたが、今回支援活動に協力していただいた皆さん、どうもありがとうございます。



炊き出しの皆さん

中華蕎麦 奨 (定休日: 不定休)
松江市大輪町392-130
(0852-67-2626)

女性部活動

中国・四国ブロック商工会 女性部交流会高知大会

中国四国ブロック商工会女性部交流会が7月12日、高知市の高知県民文化ホール「オレンジホール」を会場に中国四国各県から913名を集めて開催された。本県からは、132名が参加。

開会式に続き、中国四国ブロック商工会女性部主張発表大会が行われ、各県代表の9名が、持ち時間10分という短い時間の中で、日頃の女性部活動への取り組みについて熱弁をふるった。

島根県代表の徳政好枝さん(津和野町商工会女性部)は、『小



島根県代表の徳政 好枝さん

さな活動の積み重ね・まちづくりの第一歩』をテーマに、津和野町商工会女性部が携わっている青空物産店「新・さば街道」の紹介や社会貢献事業の取り組みなどを表現豊かに発表されたが、残念ながら最優秀賞には届かなかった。

最優秀賞は香川県代表の渡辺智子さん、優秀賞は岡山県代表の杉本清美さんに輝いた。

主張発表終了後は、馬路村農業協同組合代表理事組合長 東谷望史氏による、「ゆずの市場開拓から始まった地域づくり」と題して講演が行われた。

交流会の後、会場を高知新阪急ホテルに移し、懇親会が行われた。

懇親会では、高知県の各女性部が踊りや歌を披露、また、高知県トラック協会によるよさこい鳴子踊りも披露された。部員交流も盛んに行われ、大変盛り上がった1日であった。

翌日は、移動研修を実施し、牧野植物園・坂本龍馬記念館・桂浜等を視察した。

FSC™ COC
認証取得

プライバシーマーク
認定取得

品質マネジメントシステム
ISO9001:2008
環境マネジメントシステム
ISO14001:2004
認証取得



株式会社

島根県農協印刷

本社 ● 松江市浜乃木2丁目10-52 TEL (0852) 21-3476 FAX (0852) 21-3866
 妻川工場 ● 松江市妻川町大字坂田564 TEL (0853) 63-3476 FAX (0853) 63-3855
 妻川営業所 ● 松江市妻川町大字坂田564 TEL (0853) 63-3476 FAX (0853) 63-3855
 浜田営業所 ● 浜田市下府町880-1 TEL (0855) 24-8227 FAX (0855) 24-8223
 会館事務所 ● 松江市殿町15(島根JAビル別館1F) TEL (0852) 31-3611 FAX (0852) 24-1315
 広島営業所 ● 広島市安佐南区西原二丁目24-22(セントラルメッセ広島) TEL (082) 850-2207

「地球にやさしい企業」として
お客様の期待に
品質と信頼で応えます

環境にやさしい
植物油インキを使用した
印刷物の制作に取り組んでいます。



植物油インキを使用した
環境にやさしい印刷物は
このマークが目印です。



10190765(02)
JSC15001:2006(事業)



JQA-OAA12052
JQA-EMS273
本社・妻川工場



FSC® C023769
責任ある森林管理のマーク

受講生募集!!

主催：（公財）しまね産業振興財団
財団法人しまね女性センター・島根県商工会連合会
協力：島根県・（公財）ふるさと島根定住財団

平成23年度「女性」のための創業塾

日時：平成23年10月
1日（土）・2日（日）
8日（土）・9日（日）
15日（土）・16日（日）
午前10時～午後5時まで

場 所：島根県商工会館 2階201号室
（松江市母衣町55-4）

会 場：創業に関心がある女性
創業を目指している女性

内 容：創業の心得、創業で成功するための条件、
事業計画書の作り方、女性の創業体験談など

定 員：20名 申込み締切 9月15日（木）
（定員になり次第締切り）

受講料：10,000円

託 児：1名につき1日300円
（託児場所：県民会館）

講師：布野 真由美（ふの まゆみ）

ソフトウェア開発、小売業等を経験後、
2000年中小企業診断士登録。資格を活かし、
鳥取県内を主に多くの中小企業の経営診断・経営
改善を行っている。鳥取県中小企業再生支援協議
会サブマネージャー。チャレンジする起業家の支
援や、新分野進出をはじめとする中小企業の経営
革新の支援に日々奔走している。

平成19～22年度の商工会連合会の「女性の
ための創業塾」の講師。

お申込・お問い合わせ先

島根県商工会連合会 担当：島田
〒690-0886 島根県松江市母衣町55-4
TEL: 0852-21-0651 FAX: 0852-26-5357
E-mail: kenlen@shoko-shimane.or.jp
Web: http://www.shoko-shimane.or.jp/

携帯から
お申込出来ます



安心の大型補償&集団団体割引

西日本自動車共済（経済産業局認可）の自動車共済

★大型補償 共済金額「無制限」

・人身傷害共済・対人賠償共済・対物賠償共済

★集団団体割引（商工会会員限定）

・島根県下 各商工会の会員のお車のほか役員・従業員
（同居の親族を含みます。）が所有されるお車に適用

西日本自動車共済協同組合

島根県支部：松江市西津田 5-1-7 TEL0852-26-5270

本部：福岡市博多区東比恵 2-15-25 TEL092-441-5901

承認番号 NJ720.1105.0014.999999-1105(1)10000 部



合格おめでとう

第161回商工会珠算検定試
験が6月19日（日）に全国一斉に実
施され、島根県では72名が受験
し、52名が合格しました。

3級までの合格者は次のとお
り。

●1級合格者 該当者なし

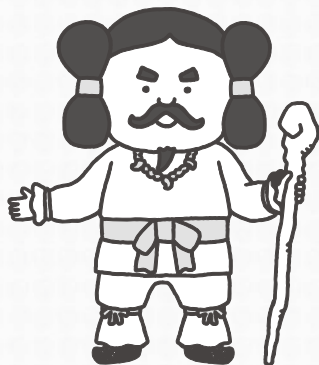
●2級合格者 該当者なし

●3級合格者 該当者なし

前島 改さん、曾田 賢吾さ
ん（出雲）

経営のお悩みに、 ワンポイントアドバイスじゃ!!

きょうかいスキルアップサポート（専門家派遣）事業



イメージキャラクター／スキルノミコト

島根県信用保証協会は、企業の皆さまの経営、技術、人材、情報等の各種課題に対し、
専門的な知識と経験を有するスキルアップサポーター（専門家）を無料で派遣し、目標の
実現や課題解決に向けたお手伝いをします。小さなことでも抱え込まないで、保証協会と
一緒に考えてみませんか。

ポイント① 無料

専門家を無料で
派遣するのじゃ!

ポイント② 簡単

簡単に改善できる
アドバイスを
受けられるのじゃ!

ポイント③ 小規模

小規模な
事業者にも
オススメじゃ!

ポイント④ 安心

保証協会職員も
一緒だから
安心じゃ!

保証協会をご利用中の方はもちろん、ご利用がない方や創業予定の方からのご相談も受付けます。



島根県信用保証協会

●何でも相談ホットライン（電話・FAX共通）

0120-40-5471

●本店：TEL0852-22-2837 ●出雲支店：TEL0853-21-4998

●浜田支店：TEL0855-22-0833 ●益田支店：TEL0856-22-4567

http://www.shimane-cgc.jp/